

総合殺菌剤

日曹

ストロビー[®] フロアブル

©BASF社の登録商標

作物たちを優しくまもる
キノコ由来の殺菌剤です



 **BASF**

We create chemistry

- クレソキシムメチル.....4.2%
- 毒 性：普通物※ ※毒劇物に該当しないものを指している通称
- 包 装：500ml×20本、1000ml×60本

特長 ①幅広い抗菌活性で、各種作物の重要病害に効果を示します。
②予防効果に優れますが、治療的効果も有します。
③有効成分が植物体に均一に拡散するため、安定した効果を維持することができます。

■適用病害および使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	10アール当たり 使用液量(ℓ)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クレソキシム メチルを 含む農薬の 総使用回数				
麦類(小麦を除く)	うどんこ病、赤かび病、赤さび病	2000～3000	60～150	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内				
小麦	赤かび病	500	25								
やまのいも	葉潰病	2000～3000	100～300	収穫7日前まで							
やまのいも(むかご)		24	3								
		2000	100～300								
きゅうり	うどんこ病、べと病、褐斑病、炭疽病	3000	3	収穫前日まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内				
きゅうり(花)	うどんこ病、べと病、褐斑病			収穫開始3日前まで							
すいか	炭疽病、つる枯病、うどんこ病	2000～3000	3	収穫前日まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内				
メロン	べと病、うどんこ病、つる枯病										
かぼちゃ	べと病、うどんこ病	3000	3	収穫7日前まで 収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内				
にがうり	うどんこ病										
うり類(漬物用)	うどんこ病、つる枯病、べと病、炭疽病										
ズッキーニ	うどんこ病										
なす	うどんこ病、すすかび病										
ピーマン	うどんこ病、黒枯病	4000	3	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内				
とうがらし類(ししとうを除く)	うどんこ病										
ししとう	うどんこ病、黒枯病	3000	3	収穫3日前まで 収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内				
はくさい	黒斑病、白斑病、べと病										
たかな、非結球はくさい	白斑病	3000～4000	3	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内				
なばな類	白さび病										
すいぜんじな	黒斑病	3000	3	収穫14日前まで 収穫前日まで 収穫14日前まで 収穫3日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内				
タアサイ	白さび病										
のぎな	べと病										
非結球レタス	褐斑病										
いちご	うどんこ病										
にら、にら(花莖)	さび病、白斑葉枯病	3000	3	収穫前日まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内				
ねぎ	黒斑病、さび病、黄斑病	2000	3	収穫7日前まで							
わけぎ		3000	3	収穫21日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内				
たまねぎ	灰色かび病	2000～3000	0.8 1.6 3.2	収穫14日前まで				3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
		10									
		20									
		40									
	灰色腐敗病	2000	100～300	0.8 1.6 3.2	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内			
		10									
		20									
		40									
にんにく	さび病	2000	100～300	8 0.8 1.6 3.2	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内				
		8									
		16									
		32									
薬にんにく		2000	100～300	収穫14日前まで	1回	散布	1回				
らっきょう	乾腐病	200	－	播付前	1回	30分間種球浸漬	1回				
にんじん	黒葉枯病	2000～3000	100～300	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内				
	斑点病	3000									
	黒葉枯病、斑点病	16						1.6			
たらんき	そうか病	2000	100～300	収穫75日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内				
アスパラガス	斑点病		100～500	収穫前日まで							
食用ゆり	葉枯病		3000	収穫7日前まで	3回以内	3回以内					
ハセリ	うどんこ病			1回							
しゅんぎく	炭疽病			3回以内	3回以内						
しそ科葉菜類(しそを除く)	灰色かび病	4000	100～300	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内				
しそ	斑点病										
モロヘイヤ	灰色かび病	3000	3	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内				
セルリー	炭疽病										
チャービル、ディル(葉)	斑点病										
さやえんどう、えんどう	うどんこ病										
茶	さび病	2000	200～400	摘採10日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3回以内				
食用金魚草	炭疽病、輪斑病、新梢枯死症	2000～3000									
食用トレンシア	うどんこ病	3000	100～300	収穫7日前まで 収穫3日前まで 収穫7日前まで 収穫45日前まで 収穫3日前まで 収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内				
食用パンジー	うどんこ病										
食用西洋たんぽぽ	うどんこ病										
食用かえで(葉)	うどんこ病										
食用ざく	うどんこ病										
さく(葉)	白さび病、黒斑病、褐斑病										
アスター	さび病	2000～3000						発病初期	3回以内	無人航空機による散布	3回以内
りんどう	黒斑病、褐斑病										
たばこ	赤星病										

*うり類(漬物用)とは赤毛うり(モーウィ)、食用ひょうたん、食用へちま、しろうり(あおろ、カリモリ、はぐらうり、青しもうり、くろろ、桂うり)、漬物用すいか(源吾兵衛西瓜)、漬物用まくらうり(べっちゃんうり)、漬物用メロン、とうがん(かもうり、冬瓜)、はやとろり、ゆうが(かんびょう)を含みます。

△使用上の注意事項

- 使用済みの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 使用に当たっては容器を良く振ってください。
- 散布液調製の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えてください。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過剰の適用は避け、なるべく作用性の異なる薬剤との輪播で使用してください。
- 小麦に対して希釈倍数500倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度運動式地上液剤散布装置を使用してください。
- いちごの施設栽培で施設内が高湿多湿な場合は、葉害を防ぐため散布後十分な換気を行ってください。また、特に散布後高湿が予想される場合は使用しないでください。
- 浸透性を高める効果のある展着剤を混用すると葉害を生じる場合があるので、展着剤混用に当たっては事前にその適否を確認してください。
- メロンに使用する場合、交配〜効果期までの散布では葉害を生じることがあるので、この時期の散布は避けてください。
- さくく使用する場合には、高温多湿条件下では葉害を生じる場合があるので使用しないでください。
- さくく使用する場合には、他剤との混用で葉害が生じる場合があるので注意してください。
- はくさいに使用する場合には、結球後期(あたまとし)までの散布で葉害が生じる場合があるので、使用を避けてください。
- はくさいに使用する場合には、高温多湿条件下では葉害を生じる場合があるので、使用を避けてください。
- 食用金魚草に使用する場合、開花後の花に葉害を生じるおそれがあるので、開花前までに散布してください。また、花に葉害が生じるため、觀賞用である(非食用)金魚草には使用しないでください。
- のぎなに使用する場合には、幼苗期の散布は多湿条件下では葉害が生じるおそれがあるので注意してください。
- しゅんぎくに使用する場合には、幼苗期の散布は多湿条件下では葉害が生じるおそれがあるので注意してください。
- アスパラガスに使用する場合には、高温多湿条件下では葉害を生じる場合があるので使用を避けてください。展着剤の加用は避けてください。
- みずかけな(水掛菜)に使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用してください。また、使用後14日間は入水しないでください。
- 本剤を無人航空機で散布する場合は、次の事項に注意してください。
 - ①散布機種の散布基準に従って実施してください。
 - ②散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ④害に対して影響を及ぼすおそれがあるので、養蚕で使用する桑葉にからないようにしてください。
 - ⑤散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意し、散布区域の諸物件に十分留意してください。
 - ⑥散布終了後は以下の注意事項を守ってください。
 - ・使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
 - ・使用済みの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。
 - ・散布終了後、機体の装置は十分洗浄してください。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないでください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。使用の際は不浸透性手袋などを着用してください。

